

アーティスト イン レジデンス

飛鳥 Art Village 2012

飛鳥に赴き、美を紡ぐ。



ごあいさつ

日本国の誕生の地、明日香。ここには様々な石造物や極彩色の古墳壁画など古代のアートが今もなお多数存在しています。明日香はまさしく、日本アートのはじまりの地であり、「日本アートの聖地」といえます。

また戦後日本における現代アートの先駆者、国際的にも高い評価を得ている“田中敦子”も、ここ明日香にアトリエを構えました。歴史的な重厚感と豊かな自然が織りなすこの地ならではの空気にその理由があるのではないのでしょうか。

アーティスト インレジデンス「飛鳥 Art Village」は、若手アーティストが、明日香に滞在し、その歴史や自然からインスピレーションを受け、「古と今～回帰的創造～」をテーマにそれぞれの表現方法で新しい明日香の魅力を多くの方々へ発信するものです。

明日香村は、村全域を屋根のないオープンミュージアムとして、五感で感じていただける『明日香まるごと博物館』づくりにとりにくんでいます。さらには日本のみならず、世界への発信をめざし、世界遺産の登録も進めています。

今回の「飛鳥 Art Village」が、まるごと博物館づくりや世界遺産登録につながる大きなステップとなることを期待しております。

最後になりましたが、本プロジェクトの開催にあたり、ご指導・ご協力を賜りましたスペシャルアドバイザーの先生方をはじめ、ご参加いただきました作家の皆様、またご支援・ご協力を賜りました関係者の皆様に深く感謝を申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

2013年3月

明日香村長 森川 裕一

Profile

川本 陸洋

KAWAMOTO Kugahiro



1982年 大阪府堺市生まれ(兵庫県川西市在住)
2003年 ビジュアルアーツ専門学校写真学科卒業
主な展覧会
2002年 MiO写真奨励賞2002
(ミオホール/天王寺)
2008年 JEANS FACTORY ART AWARD 2008
(文化プラザかるはまと/高知)
2012年 川本陸洋個展「はくんちのあとりえ。」
(gallery霧とマッチ/奈良)など。

佐藤 学

SATO Manabu



1985年 東京都足立区生まれ(茨城県つくば市在住)
2008年 東京学芸大学卒業
現在は筑波大学大学院博士後期課程日本画在学中
主な展覧会
2010年 個展「なみ、え、みち、つくばから」
(茨城県つくば美術館/茨城)
2011年 アート亀山2011('12参加/亀山市東町商店街/三重)
2012年 佐藤学展「地をつなぐ」(伊勢現代美術館/三重)
C-DEPOT2012 TOKYO-YOKOHAMA
(スパイラル/東京)など。

清水 総二

SHIMIZU Soji



1983年 三重県四日市市生まれ
(東京都世田谷区在住)
2012年 筑波大学芸術専門学群卒業
主な展覧会
2011年 中之条ビエンナーレ (旧第三小学校/群馬)
Tegami-Perspektiven japanischer Künstler
(ハンブルク、プエノスアイレス、ベルリン)
2012年 Warehouse Project (横浜)
Art Radio Show
(代官山アートストリート/みどり荘/東京)
BankART AIR Program (横浜)など。

今回、「飛鳥 Art Village」に参加させて頂いて、とても有意義な時間を過ごす事ができました。

明日香村長、明日香村役場の方々、その他関係者の方々、報道して下さった記者の方々、村の人たち、そして展示を見て下さった鑑賞者の方、色々な人に感謝の気持ちでいっぱいです。

このご恩は、私が作家として活動を続け、活躍して行く事が恩返しだと思っています。

そのなかで明日香村のこともより多くの人に広めていけたらと思います。

この度は本当にありがとうございました。

滞在中、過去の痕跡を辿っていると、いつしか明日香の懐へと彷徨っていた。そこで感じたのは、山や川、空、過去の痕跡を含めた1400年分の明日香村のものだった。

画面上で動く水や紙は生きているようで、私の意志を超えた素材に思える。そこに紙の継ぎ重なりがせめぎ合い、絵は空間へと広がる。私はそれらの痕跡に自身の描画を添えていく。

それはまるで、土や水に対し飛鳥の人々が残してきた地の痕跡を辿ることにも似ていると思う。

飛鳥で経験した「場所と人との関係」を「絵とそれを見る人との関係」に置き換えて表しました。

梱包されたり丸められたキャンパスの中にある絵、あるいは同系色でぼんやり描かれた風景や画面の前に木の棒が立てかけられているような絵は、近づいて覗く必要があり、見ようとする気力を奪います。

見せるために整えられ、作りあげられた場所とは違った魅力を飛鳥から感じ制作しました。

勢野 五月葉

SENO Itsuha



1989年 京都府京丹後市生まれ(京都府京都市在住)
現在は京都市立芸術大学大学院修士課程在学中

主な展覧会

- 2010年 グループ展「Layer」
(Antique belle Gallery／京都)
- 2012年 グループ展「日本画学生作品展」
(ホテルグランビア京都／京都)

谷澤 紗和子

TANIZAWA Sawako



1982年 大阪府大阪市生まれ(京都府京都市在住)
2007年 京都市立芸術大学大学院修士課程修了

主な展覧会

- 2010年 FUTURE PRIMITIVE
(MA2Gallery／東京)
- 2011年 個展「会場」(MATSUO MEGUMI + VOICE
GALLERY pfs/w／京都)
歌とピクニック
(丹波うぐいすの森 自然公園／兵庫)
- 2012年 個展「ミンハメグ」(中之島図書館／大阪)
(おおさかカンヴァス推進事業)
PARO HAPPY ART FESTIVAL 2012
(PARO市内／ブータン王国)など。

招待作家

忽那 光一郎

KUTSUNA Koichiro



1973年 東京都に生まれる(東京都在住)

1997年 文化学院卒業

個展

- 2012年 「風速0」スパイラル、東京
- 2010年 「風速0」ラディウム-レントゲンヴェルケ、東京
- 2008年 「風速0」グラニフギャラリー、福岡
- 2006年 「風速0」ウォールギャラリー、東京
「風速0」Galerie AAA、パリ
「風速0」ヴァイスフェルト-レントゲンヴェルケ、東京

グループ展

- 2012年 「Art and Air」青森県立美術館、青森
- 2011年 「掌10」ラディウム-レントゲンヴェルケ、東京
- 2006年 「ラントシャフト」ヴァイスフェルト-レントゲンヴェルケ、
東京、他。

土地には、それぞれその土地の形から生まれる性格の
ようなものがあると思っています。

その性格は、その土地の歴史にも気候にも生息している
植物や動物にも沢山の影響を与え、また受けている
気がします。

土地の中にいると、当たり前を感じる村の形が、私には
とても興味深く映りました。

広い景色や残された様々な造形物を見つめたり、ゆっ
くりと考えをめぐらせていると、今まで内側に向かいがち
だった制作が、どんどん外に開かれて行くように感じまし
た。ここで見る多くの場所やものは、言い伝えや歴史によっ
て、それらを想像する力とともに、目の前にイメージが立ち
上がります。

今回の作品も、明日香の景色から取り出した図像の力
を借りて、色々な想いを巡らせ、想像力が開放されるよう
なものになればと思います。

今回参加させていただいた「飛鳥 Art Village」は、今まで
アーティスト インレジデンスに参加した事のない私にとっ
て、展覧会等とは違った人との関わりについて、大変貴重
な経験をさせていただきました。今後もこの経験を活かし、
また違ったアプローチで人と作品の関わりについて
考えて行きたいと思っております。

最後になりましたが、明日香村の皆様、ご協力いただき
ました地域振興公社及び万葉文化館の皆様、本当に
ありがとうございました。

KAWAMOTO Kugahiro



変わり逝く世界





地を抱く



川原寺／飛鳥川上坐宇須多伎比売命神社／雷丘／もうこの森



biotop



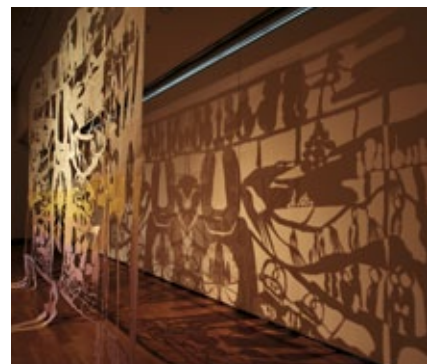
滞在期間中に描いたスケッチ／ドローイング



イマ・ス・マス



図案（イマ・ス・マス）





N34 46.0 E136 01.9
No.1



N34 46.0 E136 01.9
No.2



「飛鳥 Art Village」事業概要

■事業目的

将来性のある若手アーティストが、明日香村に短期滞在し、そのロケーションからインスピレーションを受けることで従来の発想や枠組みにとらわれない作品を制作・発表(展示)するという一連の芸術創作活動(アーティストインレジデンス)を支援します。

「飛鳥 Art Village」は、アーティストの活動により再発見される明日香村の新たな魅力・価値観をより多くの方々へ発信することを目的としています。

■内 容

□実施体制

主 催：明日香村

共 催：奈良県立万葉文化館、(財)明日香村地域振興公社

スペシャルアドバイザー

絹谷 幸二

(洋画家 大阪芸術大学教授・東京芸術大学名誉教授)

建島 哲 (美術評論家 京都市立芸術大学学長)

烏頭尾 精 (日本画家 京都教育大学名誉教授)

脇田 宗孝 (陶芸家 奈良教育大学名誉教授)

協 力：岡村印刷工業株式会社

□募集関係

募集期間：平成24年11月1日(木)～11月30日(金)

募集定員：5名程度(原則18歳～35歳の方)

ジャンル：平面作品

テ ー マ：「古と今～回帰的創造～」

応募状況：スペシャルアドバイザー等によって、18名の応募者の中から5名を決定しました。

□制作活動

滞在期間：平成25年1月20日(日)～1月29日(火)(10日間)

滞在及び制作場所：飛鳥寺研修会館 修徳坊

交流事業：芸術文化の振興や地域の人的交流を目的とし、スペシャルアドバイザー等による芸術談義(車座夜話)を期間中5日間、飛鳥寺研修会館 修徳坊において実施。

1月20日 オリエンテーション



21日 明日香めぐり

石舞台古墳、亀形石造物、飛鳥坐神社、稲渕棚田、国宝高松塚古墳壁画修理作業室の見学、万葉文化館ほか



22日 芸術談義(烏頭尾 精)



23日 奥飛鳥散策

芸術談義(絹谷 幸二)

24日 車木工房(岡村印刷)見学、福西和紙本舗体験見学(吉野)



25日 芸術談義(脇田 宗孝)

26日 国営飛鳥歴史公園館において海獣葡萄鏡製作体験



27日 芸術談義(建島 哲)

28日 脇田先生赫窯、田中敦子アトリエ見学

芸術談義(森川 裕一)



□作品展示

滞在制作の成果発表として作品展を開催。

会 期：平成25年3月16日(土)～3月31日(日)

会 場：奈良県立万葉文化館 企画展示室

3月16日(土)10:00～ オープニングセレモニー開催

◆作品展写真撮影：川本陸洋



平成24年度 文化庁 地域発・芸術創造発信イニシアチブ

